故郷（ふるさと）

うさぎ追いし　かの山
小鮒（こぶな）つりし　かの川
夢は今も　めぐりて
忘れがたき　故郷（ふるさと）

いかにいます　父母
つつなしや　友がき
雨に風に　つけても
思いいずる　故郷（ふるさと）

こころざしを　果たして
いつの日にか　帰らん
山は青き　故郷（ふるさと）
水は清き　故郷（ふるさと）

ことば本舗

さくらさくら

さくら　さくら
野山も里も　見わたす限り
かすみか雲か　朝日ににおう
さくら　さくら　花ざかり

さくら　さくら
やよいの空は　見わたす限り
かすみか雲か　匂いぞ出(い)ずる
いざや　いざや　見にゆかん

ことば本舗

茶摘み

夏も近づく八十八夜
野にも山にも若葉が茂る
「あれに見えるは茶摘みじゃないか
あかねだすきに菅(すげ)の笠(かさ)」

日和つづきの今日このごろを
心のどかに摘みつつ歌う
「摘(つ)めよ摘め摘め摘まねばならぬ
摘まにゃ日本の茶にならぬ」

ことば本舗

朧月夜

菜の花畠(はたけ)に　入日薄れ
見わたす山の端(は)　霞(かすみ)ふかし
春風そよふく　空を見れば
夕月かかりて　におい淡(あわ)し

里わの火影(ほかげ)も　森の色も
田中の小道を　たどる人も
蛙(かわず)のなくねも　かねの音も
さながら霞(かす)める　朧月夜(おぼろつきよ)

ことば本舗